

Title	國史 東洋史 西洋史 史籍解題(平凡社發行)
Sub Title	
Author	間崎, 万里(Masaki, Masato)
Publisher	三田史学会
Publication year	1936
Jtitle	史学 Vol.15, No.3 (1936. 11) ,p.142(506)- 143(507)
JaLC DOI	
Abstract	
Notes	書評
Genre	Journal Article
URL	<a href="https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19361100-0142">https://koara.lib.keio.ac.jp/xoonips/modules/xoonips/detail.php?koara_id=AN00100104-19361100-0142</a>

慶應義塾大学学術情報リポジトリ(KOARA)に掲載されているコンテンツの著作権は、それぞれの著作者、学会または出版社/発行者に帰属し、その権利は著作権法によって保護されています。引用にあたっては、著作権法を遵守してご利用ください。

The copyrights of content available on the KeiO Associated Repository of Academic resources (KOARA) belong to the respective authors, academic societies, or publishers/issuers, and these rights are protected by the Japanese Copyright Act. When quoting the content, please follow the Japanese copyright act.

のでもない。單に美術史のみならず、一般に文化的創造に關心を有するものは、この書の泉からその欲するところを汲みとるであらう。

附記 ヴェルフリンの教に従ふ者たちによつて論文が獻ぜられ、その七十歳の壽が祝はれたのは昨年のことであつた。今年にしてこの邦譯が世に出たことは悦ばしきことである。

——一九三六・七・二六—— (相内武千雄)

東洋史  
西洋史

### 史籍解題 (平凡社發行)

早稻田の講義録から現代史學大系の『史學名著解題』に至るまで、從來この種の企がなかつたのではなく、寧ろ部分的には之が近時の流行とまでなつてゐるが、遠藤之男、鈴木俊、原種行、田中正義の四氏の編纂にかゝる本書は邦書この種のもので、最も多くの書目を網羅し、編纂に於ても幾多の特色を示し、一般讀者の歓迎を受くべき著述である。しかもこの書が短日月の間に完成したことを思へば編者の努力は大に感謝に價すべく、幼稚な本邦史學界の收穫として見るべきものがあつたと言へよう。

本書全體の構成は國史(二五〇頁)、東洋史(二八四頁)、西洋史(二四〇頁)の三部門に分たれ、卷末の索引もまた之に對應して、國史(八二頁)、東洋史(九三頁)、西洋史(八頁)に分たれてゐる。

索引は自から本書の内容を物語るもので、東洋史に最も努力が拂はれ、西洋史の分量の少ないことを、その洋書の部で補ふてゐる。本書は多數執筆者の協力になるもので各項目には署名してその責

任を明かにしてある。

國史の部に於て、書目の選定は『日本文化の各分野にわたつて一應の見通しを得ることを目標とした。従つて今まで重要視せられたものも、ある場合には除かれ又逆に等閑視せられたものも採られた』(國史凡例一頁)由で、『寫本のものも重要性の程度に應じて採りあげた』(同上)といふのはよい。又著者の生歿を西曆紀元をもつてあらはしたことは、その一々について適否を點檢して見た譯ではないが、日本史方面にこの傾向を見るに至つたことは大に喜ぶべきである。

東洋史の部に於ては、『收むる書目は、大體に於いて東洋史研究に必要な一般的なものの、即ち雜誌論文や著書等にその書名が屢々散見してゐるものを主とした。従つて特殊なもの、容易に閲讀の機會なき書は此を除き又史料として、或は東洋史研究の參考書として比較的重要ならざるも、その著名なるものは収録した。』(東洋史凡例一頁)とあつて、國史の部とは幾分異なつた意圖の下に行はれてゐる。

國史の部の終末にある對外關係西籍の項目は、東洋史部の洋書の部と對比せられるもので、その中に近く岩波文庫より出版されるべき故田中先生譯ドーン蒙古史が數度か反覆されてゐることが我等の目についた。兩部の附録として國史研究參考書目録、東洋史研究參考書一覽を加へたことは、誠に親切であつて讀者にとり便利であるが、最も必要のありさうな西洋史部には加へられてゐない。しかしそれは西洋史部全體がさういふ様な仕組になつてゐる(?)ためでもあらうか。

西洋史部にあつても『我國の西洋史研究者が一應知らねばならぬ西洋史關係の文獻』(西洋史凡例一頁)を収めたとある。この方面の學問は西洋が先進國なることのために、便利な参考書が揃つてゐるので、編纂者には痛し痒しといふ所があらう。従つて我が西洋史學の幼稚なことを理由として『此の書目には「根本史料」と呼ばれる當代の記録其他を殆んど含んでゐない』(同上)ことは許さるべきであらう。編者自からも『印刷成れる今日全編を回顧して多々不滿の點を見出す。目立つた所を舉げて、編者が弱年非力なるため書目の選擇及び分類を誤り、當然收められる可き名著を落したり、見當ちがひの項目中に收めた可能性がある事、所謂歴史的名著に主力を注いだ結果、現に活用せる著書—殊に近年刊行された著書—に對して調査不充分なりし事、又、社會經濟史文獻を多量収録した結果、從來最も豊富なる文獻を有する政治史並びに文化史、特に後者の文獻が手薄となつた事等々に氣付く』(同上二頁)と言はれてゐることは全く同感である。しかしかく言はれてゐる點にその努力の跡が示されるものと見てよからう。

我國の出版界の事情に通ずるものはその全責任を筆者に課する譯には行かない。その眞の缺陷については何人よりも先づ編者自から注意されてゐる點があらうから、歴史學研究に於けるが如き苛酷な非難は差控えるべきであらうが、たゞ再版訂正の場合のために、頁をめぐつただけで氣附いた處を一二舉げて見れば、

一頁下段 (Gloiz) グロツツはフランスではメス (Mets) と共にグロスと讀みさうである。

三三頁 Lange の唯物論史には川合博士その他の邦譯がある。

## 書 評

三三頁上段 Ritter の書名は全部詳しく擧げれば幾分解題の助ともならう。

三六頁に Breasted, Ancient Times 新版は是非入れてほしかつた。その他入れて貰いたい書物は隨處にある。(フランス革命については本誌別欄拙譯参照) Fustel de Coulanges, Halévy など一般に佛國史家が無視されてゐるのはどうしたことか。H. Berr, L'Evolution humaine の如きは英譯も平行して刊行されてゐるのだから少し注意さるべきであつたらう。

一三七頁下段 Burchardt のルネサンスには、諸種の版本の外二種までも繪入りの大版が (Kroner 及び Phaidon) あることは本書の性質上附加すべきであらう。

一三八頁上段 Fretter には佛譯その他のあることも獨語のよめない人に教ゆべきであらう。こんなことを序次なく述べてゐたらば限りがないが、再版の節には一層努力の拂はれんことを希望して已まない。定價五圓(間崎万里)

## 和宮様之御生涯 (樹下快津著 人文書院發行)

著者は維新史の權威であつて、夙に和宮の御婦徳を敬仰し奉り、數々講演或は著述により其の御事蹟の宣布に力められてゐる。今次既刊の「和宮様の御一生」と題する著書の缺を補うて印行せられたものが、即ち本書である。行文は平易簡明で年少者の通讀に留意せられたが、亦研究家の便を考慮して多數の參考史料を附録してゐる。